



着実に進化する 駒大サッカーで4連勝!

駒澤大学3-0法政大学

無失点に大きく貢献した主将三澤
(撮影：佐藤亮)

5月27日 13:50 法政大学城山サッカー場	
駒大 3 (2-0) 法大 (4位)	
得点者 (アシスト)	
[駒] 28分 湯澤 (山本) [駒] 30分 三澤 (平尾) [駒] 86分 小牧	
KOMAZAWA	HOUSEI
GK①大石健太(3) DF②⑩荒井裕介(4) DF④三澤祥馬(4) DF⑬平尾優頼(2) DF③田中雄一(3) MF⑥若山瞭太(3) MF⑧碓井鉄平(3) (83分⑦中村駿(1)) MF⑨平野篤志(1) (69分③柳川剛輝(1)) MF⑪湯澤洋介(4) (85分小牧成亘(2)) MF⑨山本大貴(3) FW⑤宮城雅史(4)	GK①今井達也(4) DF④⑨星雄次(2) DF⑤平智広(4) DF⑩山口廉史(2) DF⑬木村高彰(3) MF⑫白石智之(1) MF⑭米田賢生(4) MF⑥川崎将也(4) (56分⑦真野亮二(4)) MF⑩濱中裕輔(4) FW⑦⑨深町健太(3) FW⑫松本大輝(3) (45分⑩鈴木貴大(1))
S U B	S U B
GK③⑥積田景介(1) DF③⑩川岸裕輔(2) MF⑦⑨奥村情(4) FW⑪⑬菊池将太(1)	GK②④田村昇大(3) DF⑧⑫大野瑞樹(1) DF②⑨岡直樹(3) MF③⑤岩淵貴哉(3) MF⑦⑩西室隆規(1)
MANAGER 秋田浩一	MANAGER 大石和孝
[シュート] 11:7 [GK] 16:6 [CK] 6:9 [直接FK] 5:12 [間接FK] 4:5 [主審] 大坪 博和 [観衆] 約210人	
警告(C)/退場(S)	
※データの左側が駒大	

上位対決制し、2位浮上!

8節の東海大戦で見え始めた駒大サッカーの形が確かなものになってきた。前から戦いを仕掛け、ヘディングの競り合いの強さからチャンスを量産した宮城をこの日もワントップに起用。

立ち上がりは相手のサイド攻撃からチャンスを作られる。それでも「回されるのは仕方ない、ゴール前だけ固めていれば全然こわなかった」と最終ラインを統括する主将の三澤が話すように、統一された守備意識は強く、要所を押さえ得点を与えない。

駒大も徐々にリズムをつかみだし前半6分、好位置でフリーキックを得るも得点にはならず。16分にも左サイドから平野のクロスに山本が合わせるが枠を捉えきることができなかった。

煮え切れずにいると23分、湯澤が得意のドリブルで左サイドを突破し、最後はゴール右隅へ流し込み、駒大が先制点を奪う。

勢いに乗ると直後の25分、平野が積極的に外からロングシュートを狙う。ゴール上へ外れるも、自分たちのペースへと引き寄せた。

このまま流れにのる駒大は30分にFKを獲得。空中戦で競り勝ちポ

ールがこぼれると、三澤が押し込み2点目を確実に決めてみせた。

35分、42分には左サイドから田中が駆け上がりリクロスをあげるも、追加点を挙げることは出来なかった。

後半に入ると、相手のCKからチャンスをつくられるもGK大石が落ち着いた対応をみせる。駒大も湯澤がドリブルで駆け上がるも、得点にはつながらず、互いに決定機をものにできない歯がゆい時間帯が続く。

すると、85分に投入された小牧が流れを変える。「強気でいこうとしていた」と交代のわずか1分後、カウンターからドリブルで相手DF2人を抜き、キーパーとの一対一へ。これを落ち着いて決め、待望の3点目を法政大ゴールから奪い試合を決定づけた。終わってみると、快勝を挙げ順位も3位から2位とした。

4連勝しているなかでも、「求めているところはもっと上」と主将三澤の意識は緩んではない。でき始めた形に更に磨きをかければ駒大のサッカーは日々進歩する。

「ヘディングが求められている」と宮城が言うように前線からのプレスなど、球際の強さで圧倒する駒大らしいサッカーをみせて今月から始まる総理大臣杯の予選も一戦一戦、着実に勝ち進んでもらいたい。

(櫻田芽依)